

Title	三井物産会社における慶応義塾卒業生の動向(宇治順一郎教授退任記念号)
Sub Title	Alumni of Keio Gijuku in Mitsuibussan Company(In Honour of Professor Junichiro Uji)
Author	武内, 成(Takenouchi, Osamu)
Publisher	
Publication year	1985
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.28, No.5 (1985. 12) ,p.34- 65
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19851225-04053864

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三井物産会社における慶応義塾卒業生の動向

武 内 成

序 論

われわれは先に中上川彦次郎時代を中心に三井銀行における慶応義塾卒業生の動向をみてきたが、三井物産会社においてもかなりの慶応義塾の卒業生がこの時期に入社してきている¹⁾。周知のごとく、中上川彦次郎と益田孝の争いは明治24年の中上川の三井銀行への入行からはじまり、その後、ますます益田との仲が悪くなっていく。これについては福沢諭吉が心配しながらも中上川に出した書簡にあるごとく「唯一つの気遣は渋沢益田の輩がいやに思ひはせぬかと少々関心なれども、是れは井上の方寸を以って如何様にも取扱出来可申、其外は唯内部の故老若輩のみ、之を怒らせぬやうにして御すること甚だ易し²⁾」との通り、益田との間が険悪化し、さらに、中上川の末年には井上薫の信頼をも失うことになったのである。確かに、この時期は日清戦争後の不況によって、三井銀行の業績も悪化しており、これに加えて中上川の病状もあまり良くなかった。このことは明治33年から同34年までの重役会の出席状況をもみても明らかである³⁾。

その結果、中上川没後、三井の方向転換が行われ、中上川の工業主義から益田の商業主義に移行したことに現われているし、また、三井銀行自体の投資銀行から商業銀行への戦略変更でもあった。これに関しては白柳秀湖の『中上川彦次郎伝』⁴⁾において触れられており、その後の研究においても、この白柳の論調は重要な影響を与えているように考えられる。ただ、益田に対する商業主義

1) 拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」『三田商学研究』1984年8月、第27巻第3号64～119頁

2) 日本経営史研究所編『中上川彦次郎伝記資料』（東洋経済新報社刊 昭和44年10月）220頁

3) 財団法人三井文庫『三井事業史 資料篇 四下』（三井文庫編 1972年7月）によれば、明治33年8月17日付けに「専務理事中上川彦次郎転地療養追任ノ件」（同書26頁）、同34年4月16日付けに「中上川理事転地療養ノ件」（同書138頁）、同34年7月30日付けに「専務理事中上川彦次郎転地療養請暇ノ件」（189頁）とある。これらは中上川彦次郎の病状の悪化を示すものと思われる。また、後に中上川の跡を襲う早川千吉郎が三井の重役会に参列員となるのは明治34年4月2日からである。このことがなにをかたっているのかが問題である。

4) 白柳秀湖『中上川彦次郎伝』岩波書店刊、昭和15年6月、特に第三篇 第七章 第五一節「商事の益田孝と工業の中上川」（196～197頁）を参照のこと。

との評価は、その後の三井物産会社の動向をみる限り、簡単に商業主義とのみ割り切って考える訳にはゆかない。⁵⁾

しかしながら、本論文で取り扱う三井物産会社にもこの時期にかなり慶応義塾の卒業生が入社してきており、それを確定することがこの論文の一つの課題となっている。

このような問題を設定するのは、三井銀行に比べて、この時期の三井物産への慶応義塾卒業生の入社が、これまでほとんど世の注目を集めたことがなかったことによる。また、『三井事業史』に「揺籃期の三井物産会社の社員のなかには……商法講習所（のちの東京高等商業学校、現在の一橋大学の前身）校長の矢野二郎が益田の義兄にあたる関係から渡辺専次郎、岩下清周……など多数の同校卒業生がいた」⁶⁾とあるが、このような状況のなかでどれだけの慶応義塾の卒業生が物産に入社しているかの確認のためであり、また、これらの人々がその後どのような経歴を積んでいったのかに関心があるからである。

そこで、本論文の構成を述べれば、まず、第1章において、『慶應義塾塾員学生姓名録』から三井物産への入社状況を見て、『三井物産職員録』からこれを確認し、第2章においてそれらの人々の三井物産における活動状況を追跡し、続いて第3章においてかれらがその後、どのような経歴を踏んでいったかを見て、最後にこれらのことから三井物産と三井銀行における慶応義塾卒業生の動向について何らかの結論を述べたい。

第1章 三井物産会社における慶応義塾卒業生の入社状況

そこで、三井物産会社に入社した慶応義塾の卒業生を『慶應義塾塾員学生姓名録』（以下『姓名録』と略す）からこの姓名録が始まる明治29年、同31年、同33年、同35年、同38年、同39年、同40年、同41年の各年度ごとに抽出した。次に、これらの人々を明治16年の10月に三井物産が出している『社員人名録』、同「20年2月調べ」となっている『物産会社社員人名』、同26年2月刊行の『三井物産会社職員録』⁷⁾（以下『職員録』と略す）から選び出した。その後の三井物産職員録は三井文庫には

5) これについては物産から分離していった企業のことを考えている。例えば、東レ、東洋綿花といったような企業である。この問題は今後の研究課題としたい。すなわち、現在これらの動きが三井の経営多角化を示すものとされているが、多角化とコングロマリット化とは異なる。例えば、安岡重明編著『三井財閥』（日本経済新聞社刊 昭和57年）129頁

6) 『三井事業史 本篇第2巻』（1980年9月刊）272頁

7) 職員録は次のものである。

『三井物産会社職員録—新町宅勘定場置』（明治26年1月調）三井文庫 物産50-1

『三井物産合名会社使用人録』（明治28年1月25日調）三井文庫 物産50-2

『三井物産合名会社人名録』（明治29年1月20日調）三井文庫 物産50-3

『三井物産合名会社人名録』（明治30年2月1日調）三井文庫 物産50-4

『三井物産合名会社職員録』（明治31年2月1日）同15-4『三井物産合名会社職員録』（明治32年2月20日調）物産50-6

『三井物産合名会社職員録』（明治33年3月15日調）物産50-7

なく、代わりに明治38年2月20日から始まる『三井物産合名会社店別職員録』（以下『合名職員録』と略す）によってかれらの航跡を裏づけた。これらのなかで今回の研究で使用したのは各年度の卒業生の動向をみるために明治38年8月20日付けの『合名職員録』、同40年、同41年12月10日付けのものを使用した。⁸⁾

以上の職員録は対象とした期間に三井物産会社に在籍したことの確認だけであって、物産のなかでどのような活動をしたのかは解からない。そこで、これらの人々の活動をみるために『三井事業史 資料篇四上』の「三井商店理事会議事録」, 「三井商店理事会日誌」と『三井事業史 資料篇四下』の「三井営業店重役会議事録」, 「三井物産株式会社取締役会会議録」¹⁰⁾を使用した。

この方法は拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」において取ったものと同じであるが、これによって算定すれば、明治29年から同41年までの期間に慶応義塾から三井物産に入社した人々は45名にのぼる。これらの人々のうち明治34年の中上川彦次郎の没した時期で分ければ、同34年までに三井物産に入社していたのは飯塚愛吉、磯村豊太郎、市川純一、飯原佐次郎、奥山猪三郎、奥田秀次、塚原嘉一郎、塚本貞次郎、西村吉次郎、林信一郎、福原栄太郎、山村秀雄、吉弘素郎、益田英作、伊沢良立、藤原銀次郎の16名であるが、このうち伊沢と藤原は三井銀行から移籍であるので別にすれば14名ということになる。

明治34年以降になると25名が慶応義塾から三井物産に入社してきているが、その名前を挙げれば、同35年入社の朝比奈正一、石田広治、内山米蔵、田村彰一、永田久次郎、根津英一、山本道太郎等である。また、同36年には稲葉三郎が『三井事業史』にその名を確認でき、また、三神敬長が入社している。同38年になると上島純、古宮新吾、桜井信三郎、武田孝之、中野益太郎、肥田玄次郎、吉沢利次等が入り、同39年には広海幾太郎と村瀬寛一が入社している。これが同40年になると永井勇、同41年には金子岱蔵、田中信蔵、千葉櫓一、小林慶正、中島芳太郎、山田愛作などが三井物産に入社しており、中上川彦次郎没後に入社したのは25名である。さらに、三井関係企業から移籍してきたものとして、さきほどの伊沢と藤原の他に、平田篤次郎、中出久蔵、浅海金六、船尾栄

『三井物産合名会社職員録』（明治34年1月1日現在）物産50-8

『三井物産合名会社職員録』（明治36年2月25日現在）物産50-9

- 8) 『三井物産合名会社店別職員録』（明治38年2月20日現在）三井文庫 物産50-1
 『三井物産合名会社店別職員録』（明治38年8月20日現在）三井文庫 物産50-11
 『三井物産合名会社店別職員録』（明治39年8月24日現在）三井文庫 物産50-12
 『三井物産合名会社店別職員録』（明治40年5月15日現在）三井文庫 物産50-13
 『三井物産合名会社店別使用人録』（明治41年3月13日現在）三井文庫 物産50-14
 『三井物産合名会社店別使用人録』（明治41年7月22日現在）三井文庫 物産50-15
 『三井物産合名会社店別使用人録』（明治41年12月10日現在）三井文庫 物産50-16

因みにこの時期以降は『三井物産株式会社店別使用人録』（明治42年12月1日現在）三井文庫 物産50-17。『三井物産株式会社店別使用人録』（明治43年8月19日現在）三井文庫 物産50-18。『三井物産株式会社員録』（明治44年5月23日現在）三井文庫 物産50-19 となっている。

9) 三井文庫編『三井事業史—資料篇四上』1971年8月刊。三井文庫編『三井事業史—資料篇四下』1972年7月刊

10) 『三井文庫叢書』第14号1980年 369～452頁

太郎といった人々で6名になる。

第2章 三井物産会社における慶応義塾卒業生の活動

以上のように慶応義塾から三井物産会社へ入社した人々は明治29年から同41年までの間に45名を数える。確かに、この数はこの時期に三井銀行に入行した人々に比べると遙に少ない。この章では三井物産において、これらの人々がどのような活動をしたのかをみることにしよう。

まず、磯村豊太郎、福原栄太郎、益田英作等であるが、これらの人々は比較的早くから物産に入社している。なかでも福原栄太郎と益田英作は早く、福原は明治16年10月に出されている『社員人名録』¹¹⁾に手代三等香港として記されており、この同じ資料に益田英作が同じく手代三等本社としてその名がある。また、明治20年2月調べの『物産会社社員人名』¹²⁾では、益田は手代二等席元方書記となっており、福原は手代二等席香港になっている。この明治16年と同20年の社員名簿は毛筆手書きのものであり、この2資料は末尾の一覧表から省いてあるが、ただ、この両名は三井物産会社の初期から関係しており、このうちの益田は孝の弟であることを考えれば当然のことであるかもしれない。また、磯村豊太郎は益田孝の紹介により明治29年に三井物産に入社したものである。¹³⁾

紹介者はわからないけれども、飯塚愛吉、奥田秀次、塚原嘉一郎、塚本貞次郎、奥山猪三郎、飯原佐次郎、市川純一、西村吉次郎、林信一郎、吉弘素郎、山村秀雄らも比較的早くから三井物産に入社していたものと考えられる。塚本の名前は明治29年の慶応義塾の姓名録にあり、同31年の姓名録において三井物産に入社したことが確認でき、『合名職員録』では馬関の船舶主任になっている。また、塚原は同31年の『姓名録』に同じくその名があり、三井物産の重要な商品である石炭部門を三池で担当している。塚原の場合はその後、上海支店勤務になるが、ここでも石炭関係の仕事であった。奥山の場合は同29年の『姓名録』から三井物産に入社となっており、しかも、手代七等で東京勤務となっており、かれの場合はいわゆるスタッフ部門にこの調査期間は勤めている。

市川純一は『姓名録』によれば、明治29年に三井物産に入ったことになっているが、『職員録』では同30年から確認でき、その後、孟買支店において勘定掛が長く、同38年から神戸支店長代理を勤めている。奥田秀次は『姓名録』で確認できるのは、同33年からであるが、三井物産の『職員録』

11) この『社員人名録』には社長として益田孝、副社長として木村正幹、元締として三井武之助、三井養之助、横浜支配人として馬越恭平等の名前があり、三井物産が明治9年7月1日付けで創立され、日も浅い時点のことである。ここでの問題は三井物産会社は当初、三井武之助、同養之助が社主となっており、それが益田孝社長となっていることにある。これについては『三井事業史』本篇第2巻1980年9月刊244～255頁を参照のこと。(三井文庫統2346-7)

12) この『物産会社社員人名』においては社長益田孝、副社長木村正幹、社主三井武之助、同養之助となっている。(三井文庫 物産別69)

13) 前田一編『磯村豊太郎伝』85頁、この伝記によれば、物産への入社は明治29年7月20日であり、これは直接、益田との面会后決まっている。

では同31年からであり、それは横浜からはじまり、その後、神戸輸入掛主任、大坂受渡掛主任、同36年には本店営業部となっている。そして、奥田は同39年の本店営業部を最後に他社に移ったものと考えられる。

飯原佐次郎は東京の石炭部から若松に移り、その後、門司に移るが、石炭関係が長い。林信一郎は同29年から三井物産でその名前を確認できるが、同33年には本店参事になった後、他の会社に移ったようである。また、吉弘素郎の名前が確認されるのは『姓名録』では、同31年であるけれども、『職員録』では同29年に「雇」とある。これは日給雇いであったものと考えられ、翌年には東京技術部の手代七等となっており、その後、横浜、本店船舶部、神戸支店石炭部、佐世保、門司で石炭関係の仕事に従事している。

中上川の没する明治34年以前に三井物産に入社した人々で、飯塚愛吉は同33年に入社、その後、本店営業部から台北支店、台南出張所、台北支店受渡主任、同41年には本店営業部集金課と移っている。また、西村吉次郎は同33年から物産に入っているが、『職員録』に大坂とのみ名前があるだけで、三井物産内部での地位・職務がわからない。山村秀雄も同じく33年から三井物産にその名をみることができるが、同38年以降はわからない。

中上川没後の慶応義塾から三井物産へ入社した人々は前章で述べたように、25名に上るけれども、明治35年入社の朝比奈正一は慶応義塾大学部から三井物産に入り、本店営業部から上海支店に長く、同様に石田広治も大学部から口之津支店、門司支店と移動する。内山米蔵は『姓名録』の同33年に香港とあるが、かれの三井物産における活動が確認できるのは同38年からであり、その後も香港支店、牛莊支店、大連出張所、香港支店と中国を中心に移動している。

田村彰一も慶応義塾大学部から三井物産に入り、営業関係から通信掛にいる。永田久次郎は当初から三池に関係しており、そこで勘定掛・用度掛をやり、根津英一は『姓名録』で確認できるのは同35年であるけれども、『合名職員録』では同38年の上海支店である。山本道太郎は三井物産で名前を確認できない。その後の『姓名録』では死亡者欄にその名をとどめている。

この時期以降で確認できるのは明治36年に稲葉三郎と三神敬長であり、稲葉は同36年の『職員録』にその名はあるが、『姓名録』では同41年になってからである。また、三神は同年に大坂博覧会掛とあり、その後は大坂受渡掛主任となり、同40年から呉出張員首席となっている。

明治38年以降をみると上島純、古宮新吾、桜井信三郎、武田孝之、中野益太郎、肥田玄次郎、吉沢利次、千葉櫓一等の名前があり、同39年には村瀬寛一、広海幾太郎、同40年永井勇、田中信蔵、同41年金子岱蔵、小林慶正、中島芳太郎、山田愛作である。

上島は長崎支店雑貨掛、古宮は本店営業部から台北支店、桜井は本店営業部通信掛から同雑貨掛、武田は『姓名録』によって同39年に神戸にいたことが確認でき、その後は『合名職員録』によれば神戸雑貨掛となっている。中野は下関支店において船舶部におり、千葉は同38年に台北支店、

同39年8月より本店本部出納課になっている。また、吉沢は本店営業部の鉄道並びに金物類取扱部機械掛を同40年まで、その後、本店本部の通信掛となる。肥田は磐谷で三井物産の見習生の後、王子製紙に移っている。永井は本店出納課、金子は本店木材部、小林は名古屋支店雑貨掛をやり、広海は『姓名録』では物産に入ったことになっているが、『合名職員録』では確認できない。山田は兵役後、三井物産に入社している。

さて、これまで考えてきたのは、慶応義塾から三井物産会社に直接入社した人々であったが、明治32年頃に中上川と益田の間に関係悪化に際して三井銀行と三井物産の間に人事交流を計ったことがあった。その時に銀行から物産に移籍したのが、伊沢良立と藤原銀次郎であった。まず、伊沢は同年2月7日付けで物産に移り、その後、調査課長、同35年に長崎支店長、同36年4月に大坂支店長（この大坂は原文のまま）に、同37年11月に依願解雇になっている。また、藤原は同32年に上海支店勤務となり、翌年12月に台北支店支店長となり、同40年の『合名職員録』では5月15日に本店木材部となっており、明治42年12月7日に支店長として小樽¹⁴⁾に赴任している。

この藤原、伊沢の外に三井銀行から移籍したものがいるが、かれらはこの銀行と物産の調整とは関係はないと思われる。その移籍組のうち銀行からは浅海金六、船尾栄太郎の2名、三井工業部から中出久蔵、平田篤次郎の2名である。浅海は明治29年の『姓名録』のみにその名が記載されているが、その後の『姓名録』にはまったく名前のない人物であるが、同29年の『職員録』に門司支店石炭掛第2部としてあり、次の年には門司支店船舶掛となっている。船尾は三井銀行から始まり、同34年に三井呉服店、翌年には三井管理部書記、同38年には日本精製糖会社員、同39年に三井物産会社員、同41年には三井同族会事務員となっている。また、三井工業部、すなわち、新町紡績所から中出久蔵、北海道炭礦鉄道会社から芝浦製作所をへて、明治34年から三井物産に移籍した平田篤次郎らがいる。

第3章 慶応義塾卒業生のその後の経歴

以上のように慶応義塾から三井物産会社に明治29年から同41年に入社していた人々は45名に上った。三井物産に入社した理由の確定はなかなか難しいけれども、中上川彦次郎の時代からこれほどの人たちが入社していたことは驚くべきことであり、三井銀行への慶応義塾卒業生の入行があまりにも注目されていることに対して、三井物産への入社者はほとんど世の注目を受けたことがなかった。それがどのような理由によるのか解からないけれども、このような数値をみるかぎり、その後のかれらの経歴を調べてみる必要がでてくる。

14) 下田将美著『藤原銀次郎回顧八十年』（講談社刊 昭和25年4月）によれば、この時、銀行から物産に移籍したのは藤原銀次郎、伊沢良立の外に高山長幸の名が挙がっているが、三井銀行の資料にも物産の資料にもその名前はない。同書 16頁

そこでこれらの人々のなかで、その後の社会で活躍した人々の経歴を追うことにしよう。この場合に三井関係企業では物産に入社したものと三井銀行その他から物産に入ってきたものと分類しておく。

まず、磯村豊太郎は物産の後に北海道炭礦汽船株式会社に入り、昭和2年2月から専務取締役、同4年から団琢磨の跡を襲¹⁵⁾って取締役会長になる。また、かれの伝記『磯村豊太郎伝』によれば、昭和6年日本製鋼所取締役会長、同9年富士瓦斯紡績会社相談役、同14年日本工業倶楽部理事長と¹⁶⁾いった仕事を歴任している。

また、福原栄太郎は明治39年9月に小野田セメント会社の専務取締役となり、これは大正9年7月まで続き、その後は昭和2年まで取締役となっている。市川純一は三井物産の機械部から独立した三機工業株式会社の創立発起人に名を連ね、大正14年4月から昭和10年6月まで監査役の任にあ¹⁷⁾った。同じく三井物産育ちの稲葉三郎は三井倉庫に移り、昭和14年12月から同19年4月まで常務取締¹⁸⁾り役となっている。桜井信三郎は明治43年には三井物産を一旦辞して、その後は三井管理部長とな¹⁹⁾る。これらの人々は明治29年から同41年までの間に三井物産に直接入社した人々である。

この他に三井関係の企業から物産に入社したものとして、銀行から移籍した船尾栄太郎は三井同族会、²⁰⁾藤原銀次郎は三井銀行、また、中出久蔵は三井の新町紡績所からの移籍組である。中出は後の三井物産では罷役となり、『慶應義塾塾員学生姓名録』では日本精製糖会社員になっており、三井物産の罷役のまま同社に入ったようであり、その後は三井鉱山に入社している。

また、北海道炭礦鉄道から物産に移籍した平田篤次郎はその後、三井物産において大正10年に取締²¹⁾りに就任し、昭和2年から東洋レーヨン株式会社の専務取締役、同5年11月から芝浦製作所の社長を同10年まで勤め、その後は取締²²⁾りに同12年まで、相談役として同15年まで勤めている。

このように磯村豊太郎、福原栄太郎、市川純一、桜井信三郎等は三井物産育ちといってもよい人々であり、これに対して、船尾栄太郎、藤原銀次郎等は三井銀行からの移籍組であり、平田篤次郎、中出久蔵は三井関連企業からの移籍組であるが、中出を除いて、これらの人々は三井関係企業のなかで重役にまで登りつめた人々である。

これらの人々の履歴をみるかぎり、かれらの就職先によって、三井物産から分離していった企業と三井関連企業とにわけることができる。すなわち、中上川彦次郎時代に三井関連企業になった主

15) 七十年史編纂委員会編『七十年史 北海道炭礦汽船株式会社』昭和33年10月31日 17～21頁

16) 前田一編集『磯村豊太郎伝』285～304頁

17) 小林麟太郎『三機工業三十五年史』昭和35年1月刊 11～15頁及び464頁『三井読本』(亜細亜書房刊昭和18年5月) 424～430頁

18) 三井倉庫株式会社編『三井倉庫五十年史』昭和36年3月刊 554頁

19) 桜井信三郎については『慶應義塾出身名流列伝』478～479頁

20) 藤原銀次郎については拙稿「三井銀行における慶應義塾卒業生の動向」(『三田商学研究』第27巻第3号 108～109頁)

21) 東レ株式会社社史編纂委員会編『東レ50年史』471頁

22) 木村安一編『芝浦製作所六十五年史』昭和15年4月刊 126頁, 134頁, 136頁

要な企業は、鐘淵紡績会社、前橋紡績所を初めとして後に原合名会社に譲渡された紡績所、王子製紙会社、芝浦製作所、大崎製糸所といった製糸事業関係会社、北海道炭礦汽船会社等²³⁾、三井銀行から分離した三井倉庫、三井物産がなんらかの形で関係している小野田セメント会社、三機工業、東洋レーヨンといったものがあり、ここに取り上げた人々は上に挙げた企業に移籍したのである。

結 論

さて、われわれは、先に中上川彦次郎の在生中から没後の同41年までの三井銀行における慶応義塾卒業生の動向を探ってきた。このような問題を取り扱った理由は、中上川彦次郎と益田孝の争いの結果、中上川の亡くなった後、その報復が行われたと世にいわれていることにあったが、確かに、中上川没後、三井銀行を辞めていった人々もいたけれども、ほとんどの人々は、三井銀行に残っていたし、報復人事はあまりなかったように考えられる。

これに対して、益田孝の牙城である三井物産に慶応義塾の卒業生がかなりいたことはあまり知られていない。そこで、本論文の目的は調査の対象時期を中上川の時代から同41年までとり、これらの人々の動きを追い、三井物産において、かれらがどのような動きをしたのかをみることであった。そして、まず、第1章において『慶應義塾塾員学生姓名録』から中上川彦次郎の存命中から没後の明治41年にかけて三井物産に入社した人々を抽出し、第2章において、『三井事業史』と『三井物産職員録』から、かれらが三井物産に入社した様子を可能な限り辿り、かれらが物産内部でどのような職歴を積んでいたかを見て、さらに、第3章においてその後のかれらの経歴をみてきた。そこには三井銀行のような華やかさはないけれども、いく人かの人々がその後の三井関連企業で活躍している。

例えば、朝比奈正一、磯村豊太郎、市川純一、稲葉三郎、桜井信三郎、福原栄太郎、益田英作、伊沢良立、船尾栄太郎、平田篤太郎、藤原銀次郎等がその後の経済界で活躍した人々であるが、三井関連企業のなかから移籍した藤原、平田、船尾を別にすれば、物産育ちの磯村、稲葉、桜井、福原、市川、益田といった人々がその後の経済界で活躍している。その数は三井銀行を経験した人々の経歴に比べ、幾分、少ないことになる。

そこで、これらを詳しく述べれば、かれらのなかで三井物産の取締役になったのは平田篤次郎だけであり、平田が物産取締役に就任したのは大正10年であった。平田はその後、東洋レーヨンに専務取締役として入り、次に芝浦製作所の社長になっており、かれの経歴からもわかるように三井銀行を経験していないことを指摘しておきたい。

これは三井銀行における慶応義塾の卒業生の動向とは大きく異なる点である。ただ、傍系の会社

23) 白柳秀湖『中上川彦次郎伝』252頁

では、磯村豊太郎が北海道炭礦汽船会社の専務取締役、市川純一は三機工業の監査役に、稲葉は三井倉庫の常務取締役に、桜井信三郎は三井家管理部長に、福原栄太郎は小野田セメントの専務取締役といったように、その数は少ない。また、三井銀行移籍組からは藤原銀次郎だけが王子製紙会社で最後まで残った人物である。益田英作についてはここでは触れず、三越百貨店のところで述べたい。

ここにおいて残されたのは、三井関連企業である三井鉱山会社、三井呉服店（後に三越呉服店）と鐘淵紡績をはじめとする北海道炭礦鉄道（北海道炭礦汽船）会社などがあり、これらの企業にもかなりの慶応義塾の卒業生が入っている。これらの企業についても今後の研究課題としたい。

〔杏林大学〕

三井物産会社における慶應義塾卒業生の動向年賦の解説

この年賦について説明をしておかなければならない。

①は『慶應義塾塾員学生姓名録』から抽出したものである。なお、「姓名録になし」とはその時期に名簿に名前が記載されていないことを指し、「職業名なし」は名前は記載されているが、職業のないものを指す。『姓名録』については、拙稿「三井銀行における慶應義塾卒業生の動向」（『三田商学研究』第27巻第3号 1984年慶應義塾大学商学会編66頁）を参考のこと。

②は『三井事業史』の資料編四上の「三井商店理事会議事録」、三井商店理事会日誌、『三井事業史』の資料編四下の「三井営業店重役会議事録」、「三井物産株式会社取締役会会議録」、「三井家同族会管理部会議録（その一）」『三井文庫論叢』第7巻1973年、「三井家同族会管理部会議録（その二）」『三井文庫論叢』第8巻1974年、「三井家同族会管理部会議録（その三）」『三井文庫論叢』第9巻1975年、「三井家同族会管理部会議録（その四）」『三井文庫論叢』第10巻1976年、「三井物産株式会社取締役会会議録」『三井文庫論叢』第14巻 1980年を使用している。

③と④については本文の注7及び注8を参考のこと。

「その後の経歴」は引用した文献名とその頁を挙げておいた。

注：今回も三井文庫の方々にはいろいろお世話になったことをこの紙面を借りて謝しておかなければならない。

三井物産会社 No. 1-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名	朝比奈 正一	① 姓名録になし		姓氏録になし
		②		
		③		
		④		
飯塚 愛吉	①	姓名録になし		職業名なし
	②			
	③			
	④			
石田 広治	①	慶応義塾大学部在学中		慶応義塾大学部在学中
	②			
	③			
	④			
磯村 豊太郎	①	三井物産会社員		三井物産会社員
	②		12. 24, 雑貨掛 55円 (以前47円)	3. 8, 公用掛業務ヲ命ス (三上P. 162) 5. 18, 雑貨掛主任 (三上P. 191) 7. 8, 60円 (三上P. 225) 12. 16, 70円 (三上P. 341)
	③			雑貨掛 (東京) 60円
	④			
市川 純一 (慶応義塾商業学校)	①	三井物産合名会社		三井物産会社員
	②			
	③		東京秘書記手代七等	孟買勘定掛23円
	④			
稲葉 三郎	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
飯原 佐次郎	①	姓名録になし		三井物産会社員
	②			
	③			
	④			東京石炭部22円
上島 純	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			

①慶應義塾塾員学生姓名録, ②三井事業史, ③三井物産職員簿, ④三井物産合名職員録

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	慶応義塾大学部在学中		三井物産合名会社
	三井物産社員 本店営業部 (日給者の項に氏名)	台北	三井物産合名会社社員
	職業名なし		三井物産合名会社社員
8. 1, 80円 (三上p. 459) 12. 8, 90円 (三上p. 518) 本店雑貨掛主任	三井物産会社社員 12. 4, 150円 (三下p. 73), 12. 7, 臨時営業部毛類掛主任業務ヲ命ス (三下p. 74) 12. 7, 特別手当250円 (三下p. 83) 本店雑貨掛主任	12. 20, 特別手当275円, 給与170円 (三下p. 235) 本店営業部雑貨掛主任	三井物産合名会社社員 6. 10, 特別手当 275円 (三下p. 327) 12. 24, 特別手当350円, 給与170円 (三下p. 327)
5. 5, 特別手当 35円, 当時ノ給料25円 (三上p. 410), 12. 29 特別賞与60円 (三上p. 459) 孟買勘定掛主任	三井物産会社社員, Bombay, India 10. 12, 孟買支店 40円 (三下p. 46) 同, 本邦給金45円トス (三下p. 49) 12. 25, 特別賞与250円 (三下p. 92)	1. 11, 増給50円, 孟買 (三下p. 106) 11. 12, 増給55円 (三下p. 235) 12. 20, 特別賞与100円 (三下p. 237)	三井物産会社社員
	姓名録になし		姓名録になし
	三井物産会社社員 12. 25, 若松 石炭掛主任 特別賞与35円 (三下p. 92) 若松石炭掛通信掛主任	7. 30, 自今月俸金55円, 若松出張所次席 (三下p. 190) 12. 20, 特別賞与 50円, 増給60円 (三下p. 237) 若松石炭掛兼通信掛主任	三井物産会社社員
	姓名録になし		姓名録になし

No. 1-2

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
朝比奈 正一	①	本店営業部		三井物産会社員(上海)	三井物産会社員(上海)
	②				
	③				
	④				
飯塚 愛吉	①	台南出張員		三井物産会社員(入管中)	三井物産会社員(台北)
	②				
	③				
	④				
石田 広治	①	口ノ津		三井物産会社員	三井物産会社員(長崎)
	②				
	③				
	④				
磯村 豊太郎	①	6. 30, 営業部長心得ヲ命ス(三下P. 469), 7. 30, 特別手当375円(三下P. 476), 12. 26, 特別手当600円(三下P. 547) 同給与 225円(三下P. 548)	7. 5, 特別手当1,000円給与225円(三下P. 609) 12. 26, 営業部長ヲ命ス 275円(三下P. 655)	三井物産会社員	三井物産会社員
	②				
	③				
	④				
市川 純一 (慶応義塾商業学校)	①	7. 3, 孟買, 勘定掛主任		三井物産会社員(神戸)	三井物産会社員(神戸)
	②				
	③				
	④				
稲葉 三郎	①	孟買, 勘定掛主任		姓名録になし	姓名録になし
	②				
	③				
	④				
飯原 佐次郎	①	7. 3, 特別手当75円 若松 石炭掛, 通信掛主任		三井物産会社員(門司支店員)	三井物産会社員(門司支店員)
	②				
	③				
	④				
上島 純	①			三井物産会社員	三井物産使用人
	②				
	③				
	④				

1907年 明治40年	1908年 明治41年	その後の経歴
5. 15, 上海支店輸入雑貨掛	三井物産会社員 12. 10, 上海支店石炭掛	『慶応義塾出身名流列伝』によれば三井物産上海支店員
5. 15, 汕頭出張員	三井物産会社員(広東) 12. 10, 本店営業部集金課	
不明	職業名なし	
5. 15, 本店営業部長兼機械鉄道用品並金物類取扱首部長	三井物産会社員営業部長 12. 10, 本店営業部長兼機械鉄道用品並金物類取扱首部長	『七十年史 北海道炭礦汽船株式会社』によれば、磯村は昭和2年2月27日に北炭の専務取締役になり、昭和4年から団琢磨取締役会長と共に取締役社長になる。そして、かれは昭和9年下期から昭和14年上期まで取締役会長となっている(同書, 第五部 資料 pp. 17~21)。また、『磯村豊太郎伝』によって磯村の経歴を追えば、明治22年4月慶応義塾卒業, 同23年通信省大臣官房文書課雇員, これを辞任し, 同24年慶応義塾普通部教員, 同27年日本銀行文書局第一課書記, 同29年7月29日三井物産会社に入社する。昭和6年日本製鋼所取締役会長, 同9年富士瓦斯紡績会社相談役, 同11年日本工業倶楽部専務理事, 同14年日本工業倶楽部理事長に就任。
5. 15, 神戸支店支店長代理, 輸出雑貨掛主任	職業名なし 12. 10, 神戸支店支店長代理花菱掛主任	『三機工業三十五年史』によれば, 市川は三機工業株式会社の創立発起人の一人となっており, その後, 同社の監査役となっている(同書 pp. 11~15)。また, 同社の監査役としての在任期間は、大正14年4月22日から昭和10年6月25日までである(同書 p. 464)。
	三井物産会社員 不明	『三井倉庫五十年史』によれば, 稲葉は昭和14年12月19日から同19年4月30日まで三井倉庫株式会社の専務取締役を勤めている。
5. 15, 門司支店石炭掛第二部主任	三井物産会社員(門司支店員) 12. 10, 門司支店石炭掛第二部主任	
5. 15, 長崎支店雑貨掛	三井物産会社員(長崎) 12. 10, 長崎支店雑貨掛	

三井物産会社 No. 2-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名 内山米藏	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
奥山猪三郎	①	三井物産合名会社		三井物産合名会社
	②			
	③	東京手代七等	東京技術部手代七等	東京書類保管掛19円
	④			
奥田秀次	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			横浜25円
	④			
金子岱三	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
古宮新吾	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
小林慶正	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
桜井信三郎	①	慶応義塾大学部在学中		米国留学中
	②			
	③			
	④			
武田孝之	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
田中信藏	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	姓名録になし		三井物産会社員 (香港)
本店庶務課	三井物産会社員 本店庶務課	本店本部庶務課	三井物産合名会社員
神戸輸入掛主任	三井物産会社員 12. 25, 特別賞与 50円 (三下 P. 93) 増給50 (三下P. 95) 大阪受渡掛主任	12. 20, 大阪受渡掛主任, 特 別賞与50円増給60円 (三下 P. 237) 神戸	三井物産合名会社大阪支店 員
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		姓名録になし
	慶応義塾大学部在学中		Berlin, Japanese lega- tion
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		姓名録になし

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
内山米蔵	①			三井物産会社員(香港)	
	②				
	③				
	④				
奥山猪三郎	①			三井物産合名会社員	
	②				
	③	本店庶務課			本店庶務課
	④				
奥田秀次	①			三井物産合名会社大阪支店員	
	②				
	③	本店営業部			本店営業部
	④				
金子岱三	①			姓名録になし	
	②				
	③				
	④				
古宮新吾	①			姓名録になし	
	②				
	③				
	④				
小林慶正	①			姓名録になし	
	②				
	③				
	④				
桜井信三郎	①			三井物産会社員	三井物産会社員
	②				
	③				
	④			2. 20, 本店営業部通信掛	8. 24, 本店営業部雑貨掛第三部
武田孝之	①			三井物産会社	三井物産会社(神戸)
	②				
	③				
	④				不明
田中信蔵	①			姓名録になし	職業名なし
	②				
	③				
	④				

1907年 明治40年	1908年 明治41年	そ の 後 の 経 歴
	三井物産会社員(香港) 不明	
	三井物産会社員 12. 10, 本店本部庶務課 書類保管係兼本部営業 部商品見本室主管	
	エフ. ダブリュ. ホー ン商店東京出張員	
	三井物産会社員(東京) 12. 10, 本社営業部木材 課	
	三井物産会社員(台北) 12. 10, 台北支店米穀肥 料掛輸入雑品掛第一・ 第二部	
	三井物産(名古屋支店) 12. 10, 名古屋支店雑貨 掛	
5. 15, 本店営業部雑貨 掛兼木材掛	三井物産会社員 12. 10, 本店営業部雑貨 掛兼木材掛	明治43年2月8日, 桜井信三郎解僱ノ件, 決議, 第29回明治43年2 月8日(「三井物産取締役会議録 自明治42年10月11日 至明治43年 2月15日『三井文庫叢書』第14号1980年) 400頁。『慶応義塾出身名 流列伝』によれば桜井は三井家管理部長となっている。478~479頁 参考。
5. 15, 神戸支店輸出雑 貨掛	三井物産会社(神戸支 店員) 12. 10, 神戸支店雑貨掛	
5. 15, 上海支店船舶掛	三井物産会社使用人 (上海) 12. 10, 本店本部所属未 定	

三井物産会社 No. 3-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名				
田村 彰一	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
千葉 櫓一	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
塚原 嘉一郎	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④	三池 (三井物産)	職業名なし 三池 (三井物産)
塚本 貞次郎	① ② ③ ④	① 慶応義塾大学部在学中 ② ③ 馬関船舶掛主任 ④	門司船舶掛主任	三井物産会社員 (赤間ヶ関) 香港
中野 益太郎	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
中島 芳太郎	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
長井 勇	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
永田 久次郎	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
西村 吉次郎	① ② ③ ④	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	慶応義塾大学部在学中		三井物産合名会社員
	姓名録になし		姓名録になし
	職業名なし 三池 (三井物産)	12. 20, 香港, 特別賞与25円 現給22円 (三下P. 239) 三池	三井物産会社員 (香港) 2. 28, 増額50円, 本邦給27 円 (三下P. 279)
馬関船舶掛主任	三井物産会社員 門司船舶掛主任	12. 20, 香港, 特別賞与25円 現給50円 (三下P. 238) 香港	三井物産会社支店 (香港) 2. 28, 増額95円, 本邦給50 円 (三下P. 279)
	姓名録になし		海運業
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		三井物産会社三池出張員
	三井物産社員		三井物産会社員

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
田村 彰一	①	本店営業部		三井物産会社員	三井物産会社員
	②			2. 20, 本店営業部雑貨掛第一部	8. 24, 牛莊支店通信掛主任
	③				
	④				
千葉 槽一	①			三井物産会社員(台北)	三井物産会社員(台北)
	②			2. 24, 台北支店	8. 24, 本店本部出納課
	③				
	④				
塚原 嘉一郎	①	香港		三井物産会社員(香港)	三井物産会社員(香港)
	②			2. 20, 香港支店通信掛主任	8. 24, 香港支店受渡掛主任
	③				
	④				
塚本 貞次郎	①	7. 3, 香港受渡主任, 特別手当 200円 (三下P. 475) 香港		三井物産会社員(長崎)	三井物産会社員(長崎)
	②			2. 20, 長崎支店支店長代理石炭掛	8. 24, 長崎支店支店長代理石炭掛船舶掛主任
	③				
	④				
中野 益太郎	①			三井物産会社(下関)	三井物産会社(下関)
	②			8. 24, 船舶部若宮丸事務長	
	③				
	④				
中島 芳太郎	①			姓名録になし	姓名録になし
	②				
	③				
	④				
長井 勇	①			姓名録になし	姓名録になし
	②				
	③				
	④				
永田 久次郎	①			三井物産会社三池出張員	三井物産会社三池出張員
	②			2. 20, 門司支店勘定掛	8. 24, 三池出張所勘定掛主任
	③				
	④				
西村 吉次郎	①	大阪	大阪	職業名なし	職業名なし
	②				
	③				
	④				

1907年 明治40年	1908年 明治41年	そ の 後 の 経 歳
5. 15, 牛莊支店通信掛	三井物産会社員(東京) 12. 10, 本店本部通信掛	
5. 15, 本店本部出納課	三井物産会社員本店員 不明	
5. 15, 上海支店石炭掛	三井物産会社員(上海) 12. 10, 上海支店石炭掛	
5. 15, 京城出張所	三井物産会社員 London 12. 10, 倫敦支店石炭船 船掛主任	
5. 15, 門司支店船舶部	三井物産会社(門司) 12. 10, 門司支店船舶掛	
	三井物産会社(札幌) 12. 10, 江別木挽工場	
5. 15, 本店本部出納課	三井物産会社使用人 (東京) 12. 10, 本店本部出納課	
5. 15, 三池出張所勘定 掛主任用度掛	三井物産会社(大牟田) 12. 10, 三池出張所勘定 掛主任兼用度掛主任	
	三井物産会社員(大阪) 不明	

三井物産会社 No. 4-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名				
	根津英一	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし
	林 信一郎	① 三井物産会社員 ② ③ ④	東京技術部手代七等	三井物産会社員 東京石炭掛25円
	広海 幾太郎	① 姓名録になし ② ③ ④		
	福原 栄太郎	① 姓名録になし ② ③ 手代三等倫敦支配人 ④	11.16, 大阪支店副支配人任命ノ件 (三上P.102), 同30年11月17日より大阪副支配人, 12.17自今月給160円ヲ給ス手代三等倫敦支配人	姓名録になし 7.15, 馬関支配人ヲ命ス (三上P.230), 12.20, 175円に昇給 大阪支配人160円
三神 敬長	① 姓名録になし ② ③ ④		住所・職業名なし	
村瀬 寛一	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし	
山村 秀雄	① 姓名録になし ② ③ ④		職業名なし	
山本 道太郎	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし	
山田 愛作	① 姓名録になし ② ③ ④		姓名録になし	

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	姓名録になし		三井物産会社員
本店営業部	三井物産会社員 本店参事付属		北浦炭坑員
	職業名なし (石川)	会社員 (大阪)	会社員 (大阪)
5. 6. 本店勤務ヲ命ス (三上P. 415), 12. 26, 特別賞与400円 (三上P. 530)	姓名録になし 10. 9, 参事ヲ命ス (三下P. 47) 12. 4, 調査課長ヲ命ス (三下P. 71) 同, 月給215円 (三下P. 72) 12. 18, 特別賞与200円 (三下P. 82) 本店石炭課主任	7. 16, 支店長着任マテ大阪支店長事務取扱ヲ命ス (三下P. 184) 12. 20, 特別賞与300円, 増給215円 (三下P. 234) 本店本部調査課長兼火災保険課主任	三井物産合名会社調査係長 6. 24, 特別賞与400円 (三下P. 327) 12. 24, 特別賞与400円, 月給215円 (三下P. 404) 馬関支配人
	米国留学中		職業名なし
	姓名録になし		姓名録になし
	三井物産支店 (大阪) 大阪	大阪	三井物産支店 (旅順)
	慶応義塾大学部在学中		三井物産合資会社員
	姓名録になし		姓名録になし

No. 4-2

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
根津英一	① ② ③ ④			三井物産会社員(上海) 2. 20, 本店営業部雑貨掛第一部	三井物産会社(上海) 8. 24, 上海支店通信掛
林 信一郎	① ② ③ ④			清国貿易雑貨食糧品商	北清貿易
広海 幾太郎	① ② ③ ④			会社員(大阪)	三井物産大坂支店員
福原 栄太郎	① ② ③ ④	7. 3, 特別手当500円(三下P. 480) 12. 26, 特別手当 500円(三下P. 547) ③ 本店調査課長	2. 9, 調査課長ヲ解ク, 火災保険課主任如故(三下P. 569) 7. 5, 特別手当300円, 給料250円(三下P. 609)	職業名なし 2. 20, 本店本部火災保険課主任	小野田セメント会社専務取締役
三神 敬長	① ② ③ ④	7. 3, 大阪博覧会, 特別手当50円(三下P. 480) 大阪		職業名なし 2. 20, 大阪支店受渡掛主任	三井物産合名会社員(大阪) 8. 24, 大阪支店受渡掛主任
村瀬 寛一	① ② ③ ④			姓名録になし	三井物産合名会社(横浜船積取扱)
山村 秀雄	① ② ③ ④	関東省		会社員	c/o Fukusei Co. Hongkong
山本 道太郎	① ② ③ ④			姓名録になし	姓名録になし
山田 愛作	① ② ③ ④			職業名なし	一年志願兵

1907年 明治40年	1908年 明治41年	そ の 後 の 経 歴
5. 15, 上海支店通信掛	三井物産会社員(上海) 12. 10, 本店本部所属未定	
	炭礦及煉瓦製造販売	
	会社員 (大阪)	
	小野田セメント会社専務取締役	福原栄太郎の小野田セメント会社専務取締役就任は明治39年9月6日であり、大正9年7月14日までこれを続け、その後、昭和2年7月15日まで取締役として残っている。専務取締役時代は同社に社長がいなかったために実質的な社長であったものと考えられる。(『小野田セメント百年史』P. 750)。
5. 15, 呉出張員首席	会社員 12. 10, 呉出張員首席	
5. 15, 横浜船積取扱所	三井物産会社員(横浜) 12. 10, 横浜船積取扱所	
	c/o Fukusei Co. Hongkong	
	塾員中死亡者名簿に記載	
	三井物産会社員 (清国鉄嶺)	

三井物産会社 No. 5-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名 吉 弘 素 郎	①	職業名なし		姓名録になし
	②			
	③	東京雇	東京技術部手代七等	横浜22円
	④			
氏名 吉 沢 利 次	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
氏名 益 田 英 作	①	姓名録になし		姓名録になし
	②		9.7, 王子製紙株式会社重役選 挙ノ件 (三下P. 269)	
	③			
	④			
氏名 肥 田 玄次郎	①	姓名録になし		姓名録になし
	②			
	③			
	④			

三井関係企業からの移籍 No. 6-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名 浅 海 金 六 (慶応義塾商業 学校)	①	合名会社三井銀行神戸支店		姓名録になし
	②			
	③			
	④			
氏名 伊 沢 良 立	①	三井銀行小樽支店長		長崎三井銀行支店長
	②			
	③			
	④			
氏名 船 尾 栄太郎 (慶応義塾商業 学校)	①	合名会社三井銀行大阪支店		姓名録になし
	②			
	③			
	④			

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
本店船舶部	横浜三井物産会社支店 12. 25, 特別賞与50円 (三下P. 92) 神戸石炭掛主任	12. 20, 特別賞与50円, 増給50円 (三下P. 238) 神戸石炭掛主任	三井物産合名会社員
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし		姓名録になし
	姓名録になし	貿易商	職業名なし

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	姓名録になし	姓名録になし	姓名録になし
2. 7, 物産ニ雇入候事, 月給140円 (三上P. 370), 10. 31, 調査課長ヲ命ス (三上P. 479), 12. 12, 給与160円手当20円 (三上P. 517), 12. 25, 特別賞与300円 (三上P. 530) 本店参事	三井物産東京 12. 4, 給与200円 (三下P. 72), 12. 18, 特別賞与500円 (三下P. 83) 長崎支店長	三井物産会社員 (東京) 12. 20, 特別賞与600円, 増給215円 (三下P. 234) 長崎支店長	三井物産会社員 (長崎) 6. 24, 長崎支店長, 特別賞与300円 (三下P. 327) 12. 24, 特別賞与400円, 月給215円 (三下P. 404)
	三井銀行員 (東京) 12. 8, 昇給60円 (呉服店帳場係長)	三井呉服店員	三井管理部書記 6. 10, 本店秘書係長 (呉服店)

No. 5-2

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
吉 弘 素 郎	①			三井物産会社員 (佐世保)	三井物産会社員(門司)
	②	7. 3, 神戸石炭掛, 特別手当100円(三下p. 479)			神戸石炭掛主任
	③			2. 20, 門司支店石炭掛第二部主任	8. 24, 門司支店石炭掛第一部主任
	④				
吉 沢 利 次	①			三井物産会社員	会社員
	②				
	③				
	④				8. 24, 本店営業部鉄道並金物類取扱首部機械掛
益 田 英 作	①			姓名録になし	職業名なし
	②	9. 29, 益田英作氏へ用務囑託ノ件, 定額 750円 (三下pp. 518~519)			
	③				
	④				
肥 田 玄 次 郎	①			磐谷 (三井物産見習生)	磐谷 (三井物産見習生)
	②				
	③				
	④			2. 20, 貿易自習生磐谷	8. 24, 貿易見習生磐谷

No. 6-2

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
浅 海 金 六 (慶応義塾商業学校)	①			姓名録になし	姓名録になし
	②				
	③				
	④			2. 20, 門司支店石炭掛第二部	5. 24, 門司支店船舶掛
伊 沢 良 立	①			下野新聞取締役, 住友銀行副支配人	住友銀行員 (大阪)
	②	4. 28, 大阪支店次長ヲ命ス (三下p. 451), 7. 3, 特別賞与1, 000円 (三下p. 476), 12. 26, 特別手当500円 (三下p. 547) 長崎支店長	7. 5, 大坂次長, 特別手当550円, 給与215円 (三下p. 609) 11. 1, 依願解傭ス (三下p. 641)		
	③				
	④				
船 尾 栄 太 郎 (慶応義塾商業学校)	①			日本精製糖会社員	三井物産会社員 (東京)
	②				
	③				
	④				

1907年 明治40年	1908年 明治41年	その他の経歴
5.15, 門司支店石炭掛 第一部主任	三井物産会社門司支店 員 12.10, 門司支店支店長 代理石炭掛第一部主任	
5.15, 本店営業部鉄道 並金物類取扱首部機械 掛	三井物産会社員 12.10, 本店本部通信掛	
	三越呉服店取締役	益田英作は慶応義塾塾員学生姓名録の明治39年41年にその名があるが、これら姓名録に三井物産会社にいたことは記されていない。しかし、明治26年2月27日付けの三井物産会社職員録に「東京番頭弁務方主任二等」から「香港支配人」になっている。また、その後の職員簿には益田の名はない。
不明	王子製紙会社員	

1907年 明治40年	1908年 明治41年	その他の経歴
不明	姓名録になし	浅海金六の三井銀行における活動は拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」(『三田商学研究』第27巻第3号 pp.78~79)を参照のこと。
	職業名なし	伊沢良立の三井銀行における活動は拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」(『三田商学研究』第27巻第3号 pp.80~81)を参照のこと。
	三井同族会事務員(東京)	船尾の三井銀行における活動は拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」(『三田商学研究』第27巻第3号 pp.108~109)を参照のこと。

三井物産会社 No. 7-1

年代		1896年 明治29年	1897年 明治30年	1898年 明治31年
氏名				
中出久蔵	①	三井工業部前橋紡績所員		三井工業部前橋紡績所員
	②			
	③			
	④			
平田篤次郎 (慶応義塾商業 学校)	①	北海道炭礦鉄道会社小樽売炭 所勤務		芝浦製作所 (群馬)
	②			
	③			
	④			
藤原銀次郎	①	三井銀行深川出張所主任		上州富岡製糸所 9.13, 富岡製糸所支配人から 王子製紙へ (三下p.274)
	②			
	③			
	④			

No. 7-2

年代		1903年 明治36年	1904年 明治37年	1905年 明治38年	1906年 明治39年
氏名					
中出久蔵	①			日本精製糖会社員	日本精製糖会社員
	②				
	③	罷役			
	④			2.20, 罷役	8.24, 罷役
平田篤次郎 (慶応義塾商業 学校)	①			会社員 (東京)	会社員 (東京)
	②	7.3, 営業部毛類主任, 特別手当 150円 (三下 p.478)	12.27, 本店営業部雑貨 第二主任, 増給 120円 (三下p.654)		
	③	本店営業部			
	④			2.20, 本店営業部雑貨 掛第二部主任	8.24, 本店営業部雑貨 掛第一部・第二部主任
藤原銀次郎	①			三井物産会社支店長 (台北)	会社員 (東京)
	②	7.3, 特別手当 400円 (三下p.476) 12.26, 特別手当 600円 (三下 p.547) 同日, 給与225 円 (三下p.548)	7.5, 台北支店長, 特別 手当600円, 給与225円 (三下p.609)		
	③	台北支店長			
	④			2.20, 台北支店長	8.24, 台北支店長

1899年 明治32年	1900年 明治33年	1901年 明治34年	1902年 明治35年
	三井紡績所 (新町)		三井物産会社員
12. 25, 特別賞与100円 (三上P. 530)	三井芝浦製作所員 12. 21, 特別賞与100円 (三下P. 92), 12. 25, 増給50円 (三下P. 95) 横須賀, 出張員	三井物産会社員 12. 20, 本店雑貨掛, 特別賞与50円, 増給65円 (三下P. 237)	三井物産合資会社員
3. 3, 上海支店勤務ヲ命ス (三上P. 384), 12. 12, 給与135円 (三上P. 518), 12. 20, 特別賞与225円 (三上P. 530)	三井物産会社員 (上海) 12. 4, 台北支店長ヲ命ス (三下P. 71), 同日給与175円 (三下P. 72), 12. 18, 特別賞与300円 (三下P. 83) 漢口, 出張員	三井物産会社員 (漢口) 12. 20, 特別賞与400円, 増給200円 (三下P. 234) 台北支店長	三井物産合名会社支店長 (台北) 6. 24, 台北支店長特別賞与275円 (三下P. 327), 12. 24, 特別賞与400円, 月給200円 (三下P. 404)

1907年 明治40年	1908年 明治41年	そ の 他 の 経 歴
5. 15, 罷役	三井鉱山 (鹿兒島) 12. 10, 罷役	
5. 15, 本店営業部砂糖掛主任兼米穀肥料掛主任	会社員 (東京) 12. 10, 台南出張所長	『芝浦製作所六十五年史』によれば「明治26年に慶応義塾を卒業後北海道炭礦汽船に入り, 三十年当所に転じて販売係に勤務, 三十二年三井鉱山会社に再転, 明治三十三年三井物産会社に入社後, 台南出張所長, 本店砂糖部長, 小樽支店長, 大阪支店長を経て大正十年取締役に昇進, 昭和二年以来東洋レーヨン株式会社専務取締役に就任中であつた」とあり, その後芝浦製作所の社長に昭和5年11月20日から昭和10年5月30日まで, 取締役会長に昭和10年5月30日から同12年5月29日まで, 相談役に昭和12年5月29日から昭和15年まで勤めている。(上記書, 126頁, 134頁, 136頁参照のこと。)
5. 15, 本店材木部	三井物産東京支店員 12. 10, 本店本部木材部長兼札幌出張所長	明治42年12月7日付けで「藤原銀次郎ニ小樽支店長任命ノ件」とある。(三井物産株式会社取締役会会議録『三井文庫叢書』第14巻1980年) P. 383 藤原銀次郎の三井銀行における活動は拙稿「三井銀行における慶応義塾卒業生の動向」(『三田商学研究』第27巻第3号 pp. 108~109)を参照のこと。